

平成 29 年度 第 1 回 尼崎市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成 29 年 8 月 28 日 (月) 午後 1 時 30 分 ~ 2 時 40 分

【場 所】 尼崎市役所 議会棟 議員総会室

【出席者】 尼崎市総合教育会議構成員

稲村 和美 市長 / 座長
徳田 耕造 教育長
濱田 英世 教育委員
仲島 正教 教育委員
礪田 雅司 教育委員
徳山 育弘 教育委員

関係者 (尼崎市総合教育会議設置要綱第 5 条)

森山 敏夫 副市長
中浦 法善 ひと咲きまち咲き担当局長
白畑 優 教育次長
西野 信幸 教育次長
能島 裕介 企画財政局兼教育委員会事務局参与

【事務局】 ひと咲きまち咲き担当局 ひと咲き施策推進部 (吉田部長)
ひと咲きまち咲き担当局 尼崎大学・学びと育ち研究担当 (立石課長)

【資 料】 ・ 次第
・ 資料 1 尼崎市総合教育会議 構成員名簿
・ 資料 2 今後の教育予算のあり方について

【次 第】 開 会
1 構成員紹介
2 今後の教育予算のあり方について
3 意見交換
4 その他
閉 会

【議 事】 (敬称略)

稲 村 教育の分野はここ十年は予算上、重点配分の対象としてきました。ただ、これ
からも全体的に財政状況が厳しいと見込まれる中で、子どもたちの未来への投資
に値することをしっかりと見極めて予算を配分していかなければならないと思
っています。本日はせっかくの機会ですので、幅広く意見交換をお願いします。
これまでの教育予算の状況等について、教育委員会でまとめていただいた資料が
ありますので、説明をお願いします。

徳 田 (資料説明)

稲 村 どんどんご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

磯 田 今後、公共施設の建て替えが控えており、維持管理費を含めたハード面の費用が大きくかかる中でもソフト面の充実が重要になると思われます。迫りくる中学校給食の問題に対して、ソフト面ではどのように対応するかが今後の課題ではないでしょうか。

稲 村 本市は基本的に、それぞれの局に配分された予算については、局が自らの責任の下、使い道を考え執行する「枠配分」という考え方をとっています。全市的にはその中でスクラップ&ビルドを促しています。

しかし、小中学校の空調整備のように大きな予算を伴うものについては、教育委員会事務局の予算枠内だけで賄うことは不可能ですから、別途予算を用立てて、上乘せしています。このように市として政策目的をオーソライズして実行していくものについては、枠配分の「外」で取り扱っています。ですから、中学校給食についても、今の教育委員会の枠内での捻出は相当厳しいと思われるので、市役所全体の予算から捻出していくこととなります。中学校給食を実行するために、学力向上や先生のサポート事業が同じ枠の中で削られてしまう仕組みにはなっていませんのでご安心いただきたいと思います。

ただし、教育委員会事務局だけは何も努力しなくてもいいという訳ではありません。その他、事務のあり方や学校現場の状況を含めて、例外なく業務改善を実施していただきますし、他の局がどれだけ努力しているかということに思いを至らせながら事業を進めて欲しいと思っています。

教育分野は他の分野と比較すると予算額が大きく、市議会からは PDCA は回っているのかとよく問われます。市としては、「短期で結果はできません。子どもに投資したものがどういう風に花開くかは大人になって分かるものです」という答えになりますが、私達がどういう目的意識や問題意識をもって、教育事業を組み立てているのかということは説明し、共有もしていかななくてはならないと思っています。今年度設置した「尼崎市学びと育ち研究所」の成果等を見える化しつつ、市議会のご指摘には答えていきます。

中学校給食については、就学援助を受給されている方々の給食費を公がもつこととなりますので、その負担が他都市に比べて重いというのが尼崎市の特徴です。しかし、これは翻って考えると、「給食を必要とする家庭環境にある子どもたちの数が多い」ということでもあります。

まちづくり提案箱には、「伊丹は幼児教育が無償化され、中学校給食も間近だ」とか「中学校給食はいつからですか」という声が寄せられています。残念ながら、尼崎市の中学校給食の実施は兵庫県下ではほぼ最後尾ということになりますが、その分おいしくて尼崎らしいものを目指したいと考えています。財政が厳しいので、それぞれの学校内で給食調理室を設ける自校方式は難しいと思いますが、給食センターを採用したとしても、見学できるようにするとか、これまでお弁当でやってきた流れもあるので、年に何回かは家族あるいは自分でお弁当を作るプログラムを取り入れるなど、お弁当と給食の両立をするような尼崎らしい給食も考えていかななくてはならないと考えています。

児童養護施設の方からは、「施設に入っている子どもたちだからお弁当がない」と言われないように、毎日 20 個ほどのお弁当を作っているそうです。私は選択制のお弁当方式で上手くいくと考えていましたが、なかなか思うように進みませんでした。市議会からは、給食に関する整理がついていないなかで、弁当事業はストップすべきとの声もあります。相当厳しい状況ですが、女性活躍の時代でもあり、お弁当事業をせっかく全校に広げたので、それをつなぎつつ尼崎らしい中学校給食を始められたらと思っています。

また、中学校は昼休みが短いと聞きます。給食になるともう少しお昼休みの時間が必要ではないでしょうか。

- 徳 田 最低限 1 時間は要りますね。
- 稲 村 これから議論しなくてはならない事項も多々あります。お昼休みが延びて、部活の時間が遅くなるかもしれないことや料金のことがあります。料金を上げると、先ほど申し上げたとおり、給食費に関する就学援助の費用がより必要となり、大きな影響を受けます。
- また、以前から申し上げているとおり、現場の先生方に給食費の徴収負担をかけないということが至上命題だと思っていまして、公会計についても研究をしていきます。
- 徳 田 教師側の負担はできる限りかからないようにしたいと考えております。そのために、まず小学校の方で公会計の検討を進めていますが、他方、聞いてみますと、なかなか難しいところもあるようです。
- 校長先生方からは、給食費だけではなくて、その他の徴収金についても、公会計で担ってほしいという意見がありました。そのあたりも考えていかななくてはなりません。
- 兵庫県下では、残念ながら尼崎だけが給食の実施時期が決まっておりません。
- 稲 村 中学校給食は全国的に実施されているので、関東等から転勤してくる方々の意見は厳しいです。関東は給食があるのが当たり前で、阪神間の近隣市と比較すると、尼崎を選択しない理由になります。
- 礒 田 給食費の設定も難しいですね。尼崎市の小学校給食は、阪神間で比べると、かなり安い方です。以前、PTA から「給食費を上げてください。」という意見をもらいましたが、市側が給食費を上げなかったということもありました。
- 稲 村 そうです。それは、それに伴う市の財政負担が大きいからです。
- 礒 田 中学校給食の場合も同じということですよ。実施したとしても、粗末なものになってしまうこともあり得ます。
- 稲 村 他市では、急いで導入したものの、味が子どもたちに受け入れられず、残食が多いところもあると聞いています。正直、お米だけでも自校で炊けないかなど、色々な思いはあります。
- ここ 3 年間で小中全学校に空調を整備してきましたが、実施前にこれに関して教育委員会とともに「総合計画キャラバン」と題して、PTA や学校の校長先生、中学生が参加するワークショップを行いました。
- 子どもたちからは「給食よりも空調を優先してほしい」という声が強かったことから空調を優先しましたが、その他にも「グラウンドを広くしてほしい」という声も非常に強いものがありました。グラウンドを狭くしてまで給食室を建てることは、リクエストに反しますし、予算や工期のこともありますので、自校方式はかなりハードルが高いと感じました。
- 礒 田 給食センター方式にするとしても、給食調理室の建設に広大な土地が要ります。
- 稲 村 そうです。ただ、運搬に関しては、幸いにして市域がコンパクトなのが強みと考えています。また、これから子どもの数が読みにくい時代ですので、センターで食数のコントロールがしやすいことも利点です。そして、災害時等に備えの拠点にもなるかとも思っています。「絶対自校でないといけない」という強力なご意見もあります。
- 濱 田 他市と比べても中学校の数が違います。
- 稲 村 尼崎市は 17 校もあります。しかし、驚くべきことに同じ中核市の奈良市では、自校方式で 4 年間のうちに整備しました。
- 礒 田 奈良市の学校数はどれくらいですか。
- 稲 村 人口が 30 万人くらいなので、尼崎市よりは少ないと思います。
- 徳 田 確か 13 校くらいだったと思います。

- 稲 村 短期間で整備したと聞き、驚きました。奈良市は尼崎市より敷地にゆとりがあるのかもしれませんが。
- また、経済的にも長い目で見ると、自校方式の方が費用がかからないということでした。自校方式の方が安いというのは考えにくいのですが、内部で研究してもらいます。
- それから、工事の子どもたちへの影響が気になります。耐震化工事がようやく落ち着いてきたのに、また工事ということになってしまいます。
- 課題は運営費と学校現場への負担ということでしょうか。
- 濱 田 食物アレルギーのこともありますね。
- 稲 村 先生方からすると、新たなリスクが加わる感じがするかもしれません。
- 徳 田 100 ある仕事に給食という業務が加わって 120 になるとします。民間も行政もそうですが、普通は人員の確保を行います。今回、給食という業務が増えても、教員が増えるわけではないので、不安はあるかなと思います。
- 磯 田 1 校あたりの配送量も多くなりますね。小学校に比べ、学校数は少ないですが、食べる量が大きく増えます。
- 稲 村 小学校の給食室を利用して中学校の給食を用意する親子方式も考えましたが、小さい規模の小学校の給食室で、中学校の分まで作ることが現実的ではありませんでした。
- 徳 田 今のところ、中学校の校長先生方は、流れとして中学校給食が導入されるだろうと考えておりますけれども、実際に導入する段階になって、どういう作業や準備が必要になるかが分かってくると様々な対応が求められてくるのではないのでしょうか。
- 稲 村 課題は山積みです。当面、まちぐるみで議論しなくてはならないこととして、運営に係るランニング経費をどうするかという問題が大きいです。これだけの財源を捻出するためには、教育委員会以外にもかなりの事業を見直していかないといいませんので、それに対する理解を求めていかなければならないと思っています。
- 徳 田 教育委員会としても学力向上に係る予算を約 10 年間、毎年 2 億円以上いただいておりますが、この中でも精査していかなければならない部分もあるだろうと考えております。
- 学力はなんとか全国的なレベルまで上がってきましたし、全国を超えたいというのが当初からの目標でありますので、そこまではなんとか継続をお願いしたいです。学びと育ち研究所の力も借りて、どの事業にどれだけの効果があるのか、どういった層にどういったやり方が最も効果的であるのかということを検証し、費用対効果についても考えたいと思っておりますが、短期で結果が出るものと長期で結果が出るものがあるので、そのあたりの見極めが難しいと感じています。
- 他市の教育長と話をする、毎年 2 億円という予算が付いているという点は必ずば抜けているという評価です。平成 16 年度は 5 千万円ですから、そこから 1 億 5 千万円ほど上げた費用を毎年いただいておりますので、それに応じた結果を出せるように努力をしていきたいと思っております。
- これが固定でないということは認識しており、どう変えていくのかを考えるのが大切です。教育委員会内でも例年通りという感覚ではなく、見直しをしていかなければなりません。中学校給食を進めるにあたって経常的に多額の予算が必要であることは事実なので、教育委員会も協力していきたいと考えております。
- 稲 村 学力向上という目的のために一定教育委員会で適切な予算を組み、ある種一括交付のような形で配分してきました。どういう考え方で実施したものが、どの程度手応えがあったのかどうか、そのあたりの説明を議会から求められますので、示し方が大切です。

徳 田 それは、とても必要だと感じています。今まで我々は、説明する努力というのが少なかったように思います。

稲 村 また、保護者として他の方と話をしていると、過剰に尼崎の教育に対する評価が低いように感じます。それが誤解であったとしても、評価が低いのは事実です。アンケートの結果にも表れています。誤解を放置しておく、子育て世帯の評価がますます低くなってしまいます。

なぜこんな誤解が生じるのか、この誤解を解くためには何をしなくてはならないのか、もし誤解ではなく当たっている分があるとすればどういう手を打ってあげればいいのかを相当真剣に考えないと、改善しないと思います。私たちは身近にいるから、教育委員会が頑張っていることがわかりますが、それでもダメなのかと思悩んでしまうこともあります。悔しいと思っています。

森 山 ある意味、尼崎は真面目な都市なので、重点化した施策は一生懸命ピーアールするのですが、実は重点化していなくても子ども向けの施策はたくさん打っております。そのあたりのピーアールが少し下手なのかもしれません。

全体的に「子どもに力を入れている都市」であることをもう少しピーアールしないといけないと思っています。

新年度予算の説明資料には、新規施策だけでなく、既存の施策を含めてパッケージで尼崎はいい施策を打っていることをわかっていたく努力をしていきます。

稲 村 例えば、小学校に図書臨時職員を配置し、学校の図書担当教員と連携して進める「読書力向上事業」は地道で、すごく大切な事業だと思っています。

予算の額だけでいうと、財政が豊かな市町には正直及びません。私たちは本市の中では相対的に教育分野の事業に手厚くしていますが、財政の豊かなところは、子どもの医療費の無料化や、中学校給食もいち早く実施しています。やはり財力のあるところは強いです。

しかし、質的に見たときに、子どもたちの将来を考え、基礎の部分をきちんと考えているのは尼崎市であると、ストーリー性をもってピーアールしていかないといけないと思います。

読書力向上事業も予算がついた年は資料に大きく載っていましたが、翌年からは通常の事業となって何の情報も発信できていません。3年間実施したら子どもたち、図書館にどのような変化があったかなどを振り返り、短期、長期で、意識的に取組の成果を示していくことが大事だと思います。

濱 田 ピーアール下手というのは、その通りだと思います。各学校でも学校便りを保護者に出してくれていますが、月に1回だけですし、ホームページもパッと目を引くようなものではありません。最近、尼崎城を描いたバスが走っていますが、ああいう目を引くような工夫が必要ではないでしょうか。

稲 村 保護者の立場で正直に言いますと、学校便りは文字が多いので、相当関心のある方でない読みこむのが困難ではないでしょうか。コンパクトなものがいいと思います。

これから、後期まちづくり基本計画の計画期間に入りますが、2020年の教育改革に向けて、「自分で考え行動する子を尼崎は育てます」「それを支える地域の力もあります」「企業の力も応援もあります」「これまで積み重ねてきた事業の歴史もあります」というものを打ち出したいです。「尼崎市は社会力とそれを支える基礎学力をバランスよく育てます」とわかりやすく言えたらいいと考えています。

これだけ地域や企業が応援してくれる市はなかなかありません。モノづくりを含めて仕事の最前線を見せてもらえるのは、尼崎ならではの意味では恵まれた町だと思います。

- 徳 田 伝え方は、考えないといけないと感じています。今年、とある会議で学力向上の成果を報告しました。毎年報告書を作成し、ホームページにもアップしていますが、ホームページで報告書を見るのは一部の人に限定されていることを改めて感じました。結局そこで終わってしまっているのが現状です。
- 稲 村 教育長は先日大庄地区の夏祭りでの挨拶のなかで、「学力が全国並みになって、視察もたくさん来ている！」とピーアールされていました。
- 徳 田 よく考えると、学校便りは短期的なことしか書いていないのです。平成19年、10年前に比べて、今の学校はどうなっているかということは書かれていません。「このようなところが改善されました」というところを市としても示しながら、学校も発信していかないと保護者には伝わっていきません。
- 稲 村 保護者のなかには必要以上に心配している方もいらっしゃいますし、心配していない方もいらっしゃいます。少し両極端なところがあります。
- 磯 田 情報発信するときに、本当に聞いてもらいたい保護者になかなか届かないところがあります。そのために噂に左右される人もいるのではないのでしょうか。それで、先生が各家庭を回らないといけないというのではなく、学校に来てもらうことができるような方法も考えないといけないのかもしれませんが。
- 稲 村 尼崎に限ったことではなく、全国的な傾向として、今の保護者世代は自分の学生時代に学校が荒れていたもので、学校に対する信頼が相対的に低いと言われていいます。先生方は世代交代していますが、保護者は学校に対する不信感が拭えないところがあります。
- 濱 田 その反対もあって、「自分たちのときは、荒れていたのに今はすごく良くなっている」という保護者の声も聞きます。
- 稲 村 それはいいことです。皆さんに中学校の合唱コンクールを聴きに行きたくて欲しいです。中学生が非常に困難な曲を、熱心に歌っているところを見てもらいたいです。涙なしでは聴けません。
- 磯 田 悪いところが目につくのか、いいところが目に入るのかは初めの構えのところがありますので、地道に悪循環を断ち切らないといけないと思っています。
- 磯 田 特に尼崎は教育に対する不信感が保護者世代にありますから、実感として、そうしたところが各種アンケートに反映されていると思います。ところが、今の小学生の保護者は世代も変わってきていて、少し違った感覚で見ているようです。雰囲気が変わってきました。
- 稲 村 高校の入試制度が変わって3年になりますが、中学校の保護者よりも小学校の保護者の方が関心をもっておられます。その辺の大きな違いは世代の差なのかと感じます。
- 稲 村 先日、教育長にはお話ししましたが、尼崎市独自の学力・生活実態調査について、この度、「学びと育ち研究所」ができましたので、目的や意図をもった分析を腰を据えて行っていくという考えの下、もう一段階バージョンアップした独自の学力調査を実施してもよいと思うのですがいかがでしょうか。
- 徳 田 確かに国の分析は限界にきていると感じています。6年生は毎年実施していますが、全部違う子が受けている状況です。
- 稲 村 今年受ける子と来年受ける子は別の子ですから、当該学年の子が伸びているかどうかはわからないということです。国が何のために全国学力学習状況調査をしているのかという疑問も湧きます。
- 本市や箕面でも実施しようとしています。意識をもって調査をすれば、国が制度を合わせてくる可能性も考えられます。その子がどれくらい伸びているのか、独自のテストをするなら追いかけるべきです。
- また国は、全国平均を基準に分析をしていますが、その全国平均は今子どもたちに求められているレベルに対して十分なのかどうかもわかりません。そのあた

りを整理した上で、独自の調査をすれば、活用の余地はあると思います。そうすると、保護者の方々にももっと力強く説明することもできます。

森 山

データを追いかけると、その施策の効果も判断することができます。

稲 村

感覚的ですが、学力向上施策も10年実施してきましたので、かなりのデータが蓄積されていると思っています。

徳 山

弁護士として、尼崎の学校がどのようにして良くなっていくかを考えたとき、中退する子の中には学校に戻りたい意識を持っている子はたくさんいます。そのような子たちを温かく受け入れる方向で救える方法があれば、いい雰囲気、独自の教育色が出せると思います。

稲 村

小中学校では、他都市と比べて、不登校の子が多いという傾向が見えています。学校に行けず、長期欠席になってしまっています。

徳 田

今、定時制の子どもたちが大学に行けるように、再チャレンジの機会を設けています。

森 山

再チャレンジの場が用意されているかどうかというのは非常に大切なことです。

稲 村

先日、子どもの育ちに関わる方々と車座集会をしました。色々な関係の方が来てくださり、中にはフリースクールの方も何名か来ておられました。学校にはすぐには行けないけど、フリースクールなら通える子もいると思いますので、連携するなど、選択肢がたくさんある中で丁寧に見ていかなければならないと思います。

国から正式な認可は出ないけれど、フリースクールも証明書を出せば、キャリアとして役に立つのではないかという意見ももらいました。

以 上